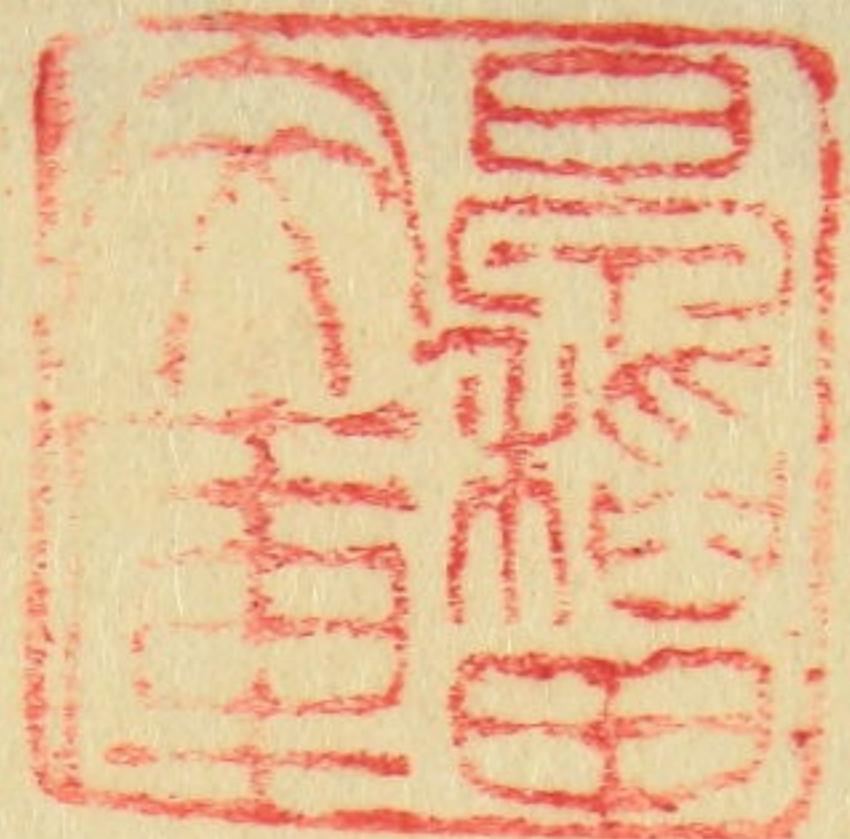


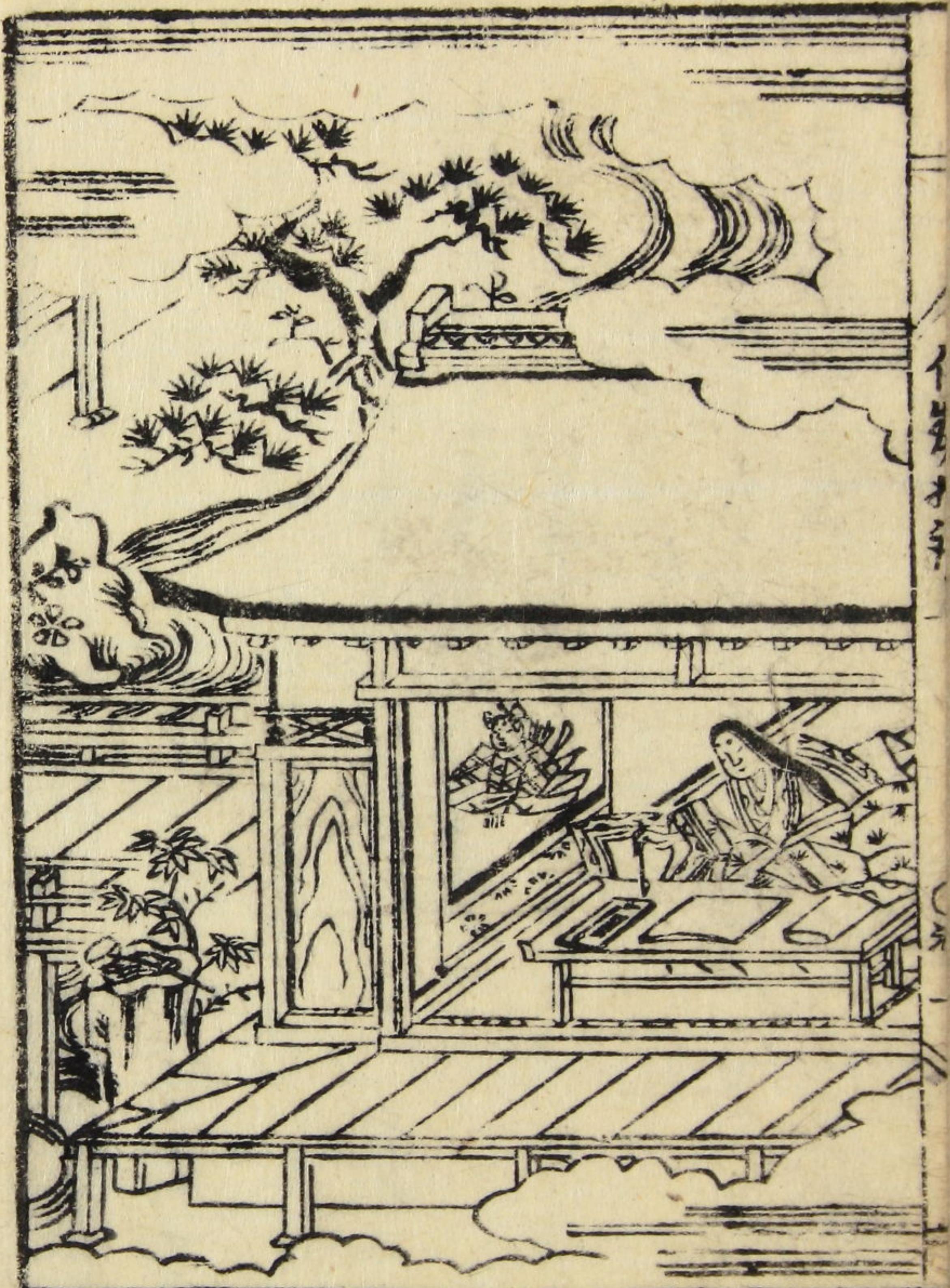
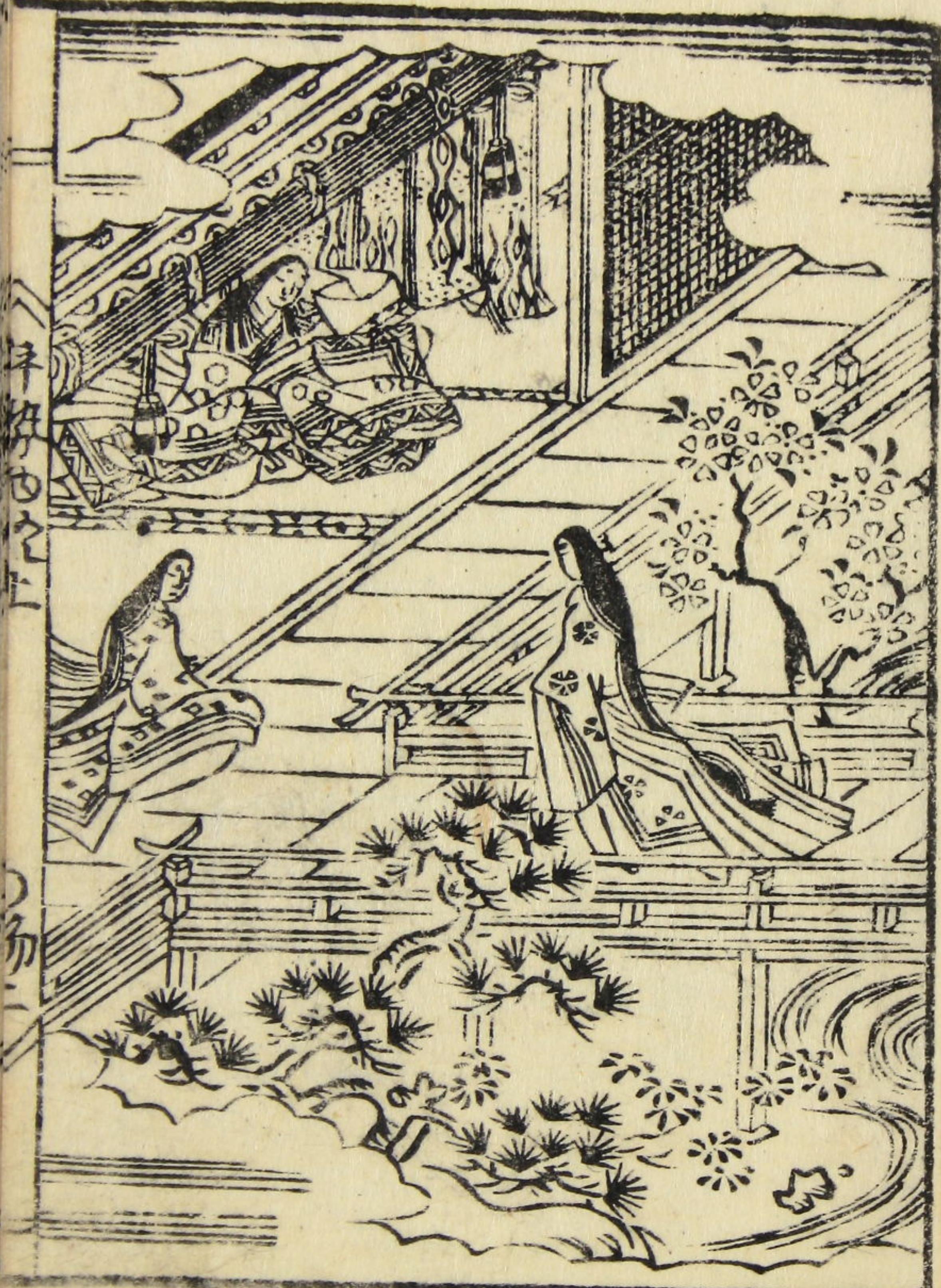
14  
3159  
C81(1)



大意

一任勢相經ハ勧業奉行自記大文字ハ併所見乃勸業事  
有は御号とからりうと云程との號をも取へかし  
。古久代の勧業奉行自記乃双紙ありじう今乍勞さ  
ゆくに本と云ふ事多似りむ所也どア

宇多院の后文七条代前へ至りしと云ひませう  
一業半ハ五歳天皇の御孫の保忍王れ又男少ア  
保和天王代天長二年ノ事の象にて生れまひ  
陽成院の元慶元年又右近來ハ務めぬよ任也



在原アシハラにス男あらゐ在五中將アシハラノミサム。元老アラシヨウを司  
セハ自アリよシテ六十六家ロクシシキニシヤを率スル家三象坊門ミツジヤボウモン  
食エシる事アリ也。

仁熟アシハラ、伊勢守連蔵イセノミツヤウをより黒川元祖アカツカノミツヤウ  
乃アリの妻孫アシハラノミツヤウを後アシハラノミツヤウ又アリ女房アシハラノミツヤウ  
宇多天皇ウタヒマツコウの寵アシハラノミツヤウをゆきし光明の親アシハラノミツヤウとす  
よも伊勢守アシハラノミツヤウ息アシハラノミツヤウ也。家ニ至アシハラノミツヤウものをう  
りんよろこぶ也。

ひづ男アシハラのうづくらアシハラ。あかうづくら  
くらは里アシハラあるよアシハラ。あく。かうとく  
くらはうづくらアシハラふくとがさアシハラちつてつ。おづくら  
くらはあり。げ男アシハラのまみアシハラぐう。ちづくら  
づくら里アシハラ。とくとくぬづくアシハラてろきアシハラもアシハラ  
くらはいりけ。づくらまみアシハラのすくら  
くらもく。哥アシハラをすくら。も男アシハラがすく  
くらめくらまみアシハラとあんきアシハラすくら  
くら。とづくらひくらのすくらとくらも

あぶらうさごれうさごれ  
や。がん。とひつも。ひいやうけく。おと  
りえ。わき。と。さくやれい。まん  
みらかくのあぶらうさごれ  
えれうせん。あ。おうちあくよ  
や。りふ。哥。わ。の。お。か。う。ま。く。く  
り。ち。も。や。い。や。も。と。り。く。け。く  
昔。男。み。き。う。さ。が。此。系。じ。と。を。ひ。系。を  
人の。あ。ま。う。と。と。と。と。と。け。う。は。く。あ



のふたり女あらうと。うれせ世人ふくみ  
おけ。ちくにあらうと。のりすんまき  
まくわりけ。むとりめこと。かざうちく  
まくわ。のすまめ男。うちわくわくうひを  
くわくわく。うちわくはんけ。你生じて  
まくわ。あそぶがむくわく。かきけれ  
まくわ。あそぶがむくわく。もとわ  
まくわ。のとて。ゆく。り  
者。男あらうけ。うど。ぎく女あらうと。



ちとさり。いふおぬのうとあ  
らわあばなれ富よね  
ひえやよく袖とくのを  
まのぬ。ごんぐとひくつ  
つまもそぞんとおけり。た  
のゆせ

前りんりの五象う。おがきといわ  
えありまけり。おのゆよに金を  
よ。さきとかのうかのうを。がさく

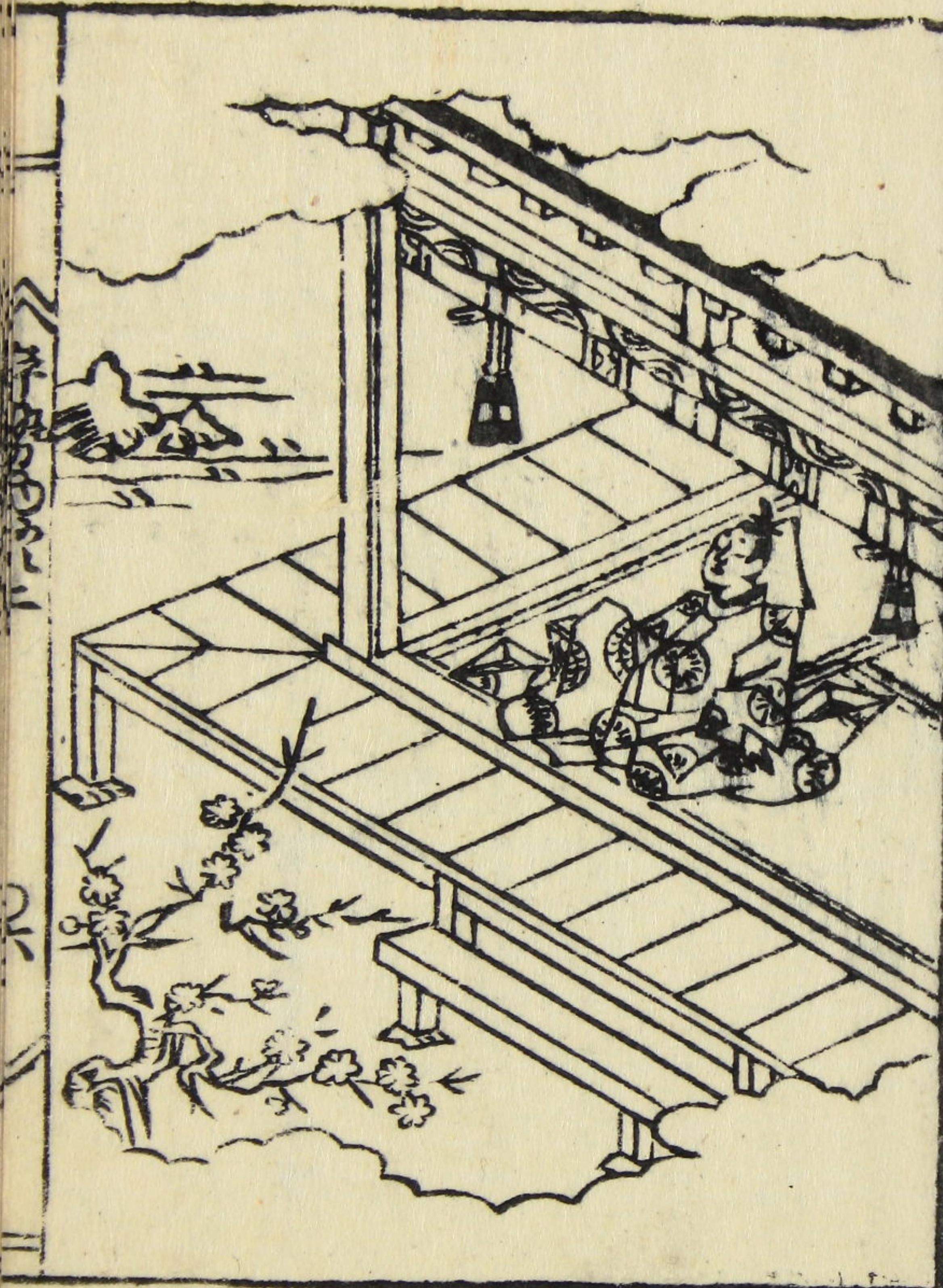


まけあんゆきさがひまほとび月の  
千日づらりわがふねにうれよろし。  
みまくけどんめりかよだきおは  
うさりけとが、がくとちりいつ  
あんまけあは年のは月よ稀な乾菴  
よどととじていえと立あさんわそとれ  
どぞにあうべとあく。うらうこあ。  
らうわくはきり。月のがさ  
まかうとうとらへ出て後も

月をうねるやひのまかうと  
わく身がゆりのまく  
やどみを極めやひごとゆふす  
ゆうにうと

ち。男あくまう。初んがたえ象さうり  
く。あじゆう。ううみそつめあ  
あきとがどもとえひでたらぐ  
のあくわく。うれしつづれくづくとも  
ういきう。人をいもわねど。まびき

うきれをひらめくものがひ  
らよおとくをすくひせけ  
きじいあどもえあそびうとくりねはめ  
人をねぬ通じれせやうも梨を  
もくとくうらを称すん  
とようとけとひとひうかやう  
ゆくてさう。二まのきよだよ  
あじくあうけうぶとくすもあされど  
うえうれりあらうるみへりとぞ



男。あらう。女のえりをす。うけ  
と。まくはるよひてうらみがれ。  
ておとみあくいとくさきうさう。  
川た川やつ川をねぞいしけとも  
まのように車うけあらど。れを  
ざとあん男あり。うひある。じを  
ちとよまれじ。だにあわとあく。未  
きくかく。うあり。あむいきかく  
れどわざくわく。せとぞむく。

も  
どぐらにとらふ。もとゆなんと  
つ。ゆうけふ。思もやひととくとくを  
さうわうやといひされど。未あうさう。  
えあう。さねぢう。重くおとゆのよ  
れど。ゆうせり。う。う。う。う。  
あけもうへわ

白玉うけぞとくらあへ  
あく善あくまへかうへわと

毛は二条の。店のいと。おせむの。まかと  
に。うきり。あゆう。そ。わくへ。うけ。が  
が。うち。と。先で。そ。お。く。なれ。ね。  
も。ち。ひ。て。出。そ。り。け。く。ふ。せ。さ。う。と。が。川  
の。お。く。だ。く。く。お。つ。ひ。大。納。ま。ま。ご。ま  
ら。う。そ。因。へ。ま。う。お。お。く。ふ。う。う。を  
く。り。く。と。せ。お。て。お。お。く。く。元。う。ト。く。ま  
ま。う。う。お。れ。を。く。尼。と。く。う。う。よ。く  
う。う。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。



草男。あきら。まくわ。じくわ。うよ  
つとまくわ。まくわ。もくわ。めら。ひの。あづ  
ゆ。あ。の。と。あ。く。き。の。と。そ  
と。あ。ん。よ。う。う。け。む  
せ。し。男。あ。き。ら。あ。や。ね。う。う。と。き。ん  
な。り。ま。れ。方。ア。リ。抱。米。て。す。と。あ。る。  
と。も。を。と。ほ。う。人。お。も。り。か。ち。て。あ。ま。



あきかへふ。おみぬのさう。精のさうと

入る  
誓

信達するやうなひで。立候

そらくしんぐんもよどが先わ

者。男。おこう。その男。めぐみ。か  
ものよらひすと。あはれ。はじめ  
の。おはとし。まく。めり。くわふと。めり。ま  
く。まく。おとし。まく。おとし。まく。



ちりかくとまどつてあらう。おも  
そこふかくとつひけとあめ川のまこと  
おきととまもとまくとまくとまく  
すんぱくと。ひけと。その威力をうけられ  
まれはよさくのくされがとうじゆ。お渡  
よる船のぞくと。おぎりくはくと。それ  
をひとびとらう人のいとくがまつてとま  
すと。おのまくとまくとまくとまく  
あとりひれどよちと



まかねえものされあはまへるを  
けがくさわる様とさうらふ  
こ強つとれどもかんきりひかと  
陥落へやまびじくふくふくして  
すりがのまく動うねうりのこに身で  
飛。うんとひだりてうとう。がく  
つままでしきりおのがくくもくうあ  
うとからうとくらうよ。めみだひり。  
かくわいふぞくますまこととそれを

乃り今うまにまのへんとせそ

支那文書

改行をもれど筆のひづれと  
まとも今うねくねあうとまう  
筆のひづれど筆のひづれにもう

うとうと

時、うねくねのひづれと  
がのひづれにあはれん  
そのひづれにあはれのひづれ

樂みをあく。わらわらとあるの  
とがりとあく。あれあきれあき  
上りぢきひつ。東とうふ。刺身  
されど。多分今らばよし。  
こゑんあこ鳥と。うなぎを  
名前。おもてはざま。うんちやとも  
わがらふ人いふ。やかしや  
とようあれど。母にさうて。貢ふも  
おもまき。田のあきらう。

そもも酒よ。やうせと。うひう。又。と。人  
う。乃。も。んと。づ。い。き。く。ら。也。ん。ち。か  
今。ゆ。き。う。け。よ。と。か。く。人。と。ね。え  
ま。う。け。よ。と。う。ん。が。て。か。く。人。と  
ら。ひ。け。よ。び。じ。一。う。ゆ。き。と。と。を。ゆ。う  
け。よ。ど。じ。あ。ん。り。す。く。う。か。う。が。  
め。里。う。ま。む

み。う。う。や。ま。の。ひ。の。う。き。ひ。う。ま。よ  
あ。う。か。う。う。と。う。う。や。う。う。あ。う



じこどり

秋方にもうとあらみり野  
さのじのうまとあらまほん  
あんのぬとおとくすやがうけ  
しり男乃すりきる。女ざらたいたる  
ひとあり

金  
わらわよねに叶へて物とを  
より月れらくちやすく  
あらとまき。人ひととめおとをひ

改めぞりねからくかくれのま  
かくねよ。せとましゆせにま  
あくまく。さらるる人せはりとくわ  
よ。だらんと。まじく  
見  
まこと。よもやまもやま  
こ。發けくわざくせとわくともいぞく

者  
あら男。本かうせかくかくあお  
やう

も。あ。ど。く。と。た。あ。う。ひ。き。れ  
じ。う。ね。ふ。こ。か。れ。と。と。く。そ。の。う。を。  
き。く。よ。き。れ。と。あ。り。や  
ひ。う。わ。き。と。よ。あ。そ。お。ひ。よ  
と。お。れ。と。つ。一。回。も。う。く  
と。ち。ち。く。え。と。あ。ん。ま。ま。ぐ。れ。る。く。ら。う  
う。じ。じ。よ。こ。り。ひ。ざ。と。一。わ。ざ。  
か。経。わ。く。人。へ。し。く。く  
芳。男。ら。の。ふ。よ。す。う。よ。お。く。く。く。



そひあひせ。事の合ひづかひがりん  
だらう。やつらはかさんかとけんえ  
中へにまつちよびとこみを  
きよぶくまのもくちけんがおやえれど安  
ちん。やねおぢうをかわくおほれど安  
安とゆきとくよともかおめくとくよも  
もくゆく。そやくはやくり  
むらにちきと事のあくまうと

う。乃のねあんか  
もとのはれにいそ  
や。今まえよもと  
うつむけり  
調はらの圓もさぞ  
ぬる人かあ  
通ひよがや  
も。おひなじれを  
多あらひいかまくら  
人のふれわき

やうじゆうきうぢたとらぐど。さあり  
せうみさうびとつぶえも。ばいにさんと  
しりくはかまうひのうんきくと。ざ  
のゆくに。ほよまうて。ざれすかひを。  
ほくわせうの阿ううに。されば。よのゆく  
の。とくわく。ぐくむく。あくと  
くあくと。のくと。とくと。あくと。さ  
くと。とくと。さくと。さくと。さ  
くと。とくと。さくと。さくと。さ



あらうるやうへとひそまれてつわぶや  
くぬも。ちのりのりこぞりてあすかへ  
ゆと男ぬとふしき。さるをそむう  
きれ今はゆふと。とおれぐるいまれどま  
づきも。まよひ。まよひ。さうともう。さひび  
あ。初んばう。ひのかくひりながられ  
り。かくとふと。ぬう。ばね  
いさう。ぬくえで。浦。とくとくに  
あおき



かのまづうさんと見えぬももとなりひ  
て。うらがみのまどとうとくもあむ  
年下にとくばとくはアモウ耳  
つがまとくまのまかん  
からいやりほりだ  
黒や黒天のねぬひやーーーーー  
若やかにまーーーーーーーーーー

田  
おやうある風すらあすま  
わらふ深のゆゑにざきりぬ  
じが高風ざりりう人の拂れこゝれ  
えりあらうときどり  
奉化かうむるうじわざれ拂れ  
よ移わる人をぬまう

清すにかうとももとやまく  
さうかよぶがちをさきうる男うらうるうう  
女奇どじんかうまんばがうんとてあまめ  
うりうへあとわくがくのりへんか  
ゆくゆよひづくすくくまく  
枝をうそくうくうくうくうく  
れくへあいだくうくうくうく  
ゆくゆくうくうくうくうく  
めくゆくゆくゆくゆくゆく



男もアヅヘキナガのうんじだらる  
つりあんとひきだりす。ねす  
ねく。まきうたりおが。あされど。せみつにハ  
あらわう。男、ちろきのうをぢりひそば

女  
えみアキラセミトモ人のぬりり  
シテシテアリめうてあらわう  
也。よううまれぞれとくへ  
えみりうすまくとくへ  
天きめよそじくへとくへ

わが八つの風もやさか利  
て。よううけり。まくとくへとくへ

助けり。

若男金手ひり。まくとくへ。  
鯉よき。ねねくまづ。まくとくへ。  
えれも。ゆくうるたよ。やまひづり。まくと  
のりも。られ。ゆく。まくとくへ。まくと  
りくへ。まくとくへ。まくとくへ。  
あくまく。それ。枝まくとくへ。



やくみ秋の夜来  
ゆふやうてうけゆど。ゆくはまよ  
あらんゆきまうもあ  
りりあまに移ふえれせめん  
君が里のまうり  
因  
前かとおゆか  
うかのうかとおゆか  
あらんゆきまうもあ  
りりあまに移ふえれせめん  
とくとくとくとくとく

かく哥とあん。とて、わよんつあへる  
おもいかだらう。うるうらうかと人  
せぬもと人へし。能  
と。みゑて。あくふくう。ばせくまを  
きうと。と。うりうりうりうりうり  
と。ねううううう。あくふくふくふく  
て。うりうりうりうりうりうりうり  
と。みゑえええええええええええ  
わがうううううううううううう

かく哥とあん。とて、わよんつあへる  
化す。笑て。ちきや。後  
やりひく。まもと  
人々。うち。ちじやん玉。う  
面。朝す。うるうるうるうるう  
う。や。まちん。うるうるう  
今。ひそ。うるうる。おん。うるう  
人の。うるうる。うるうる

うる

りとれあゆみとてせつおわらと  
あいありとくもあわす

まくまくまくまくまくまくまくまく

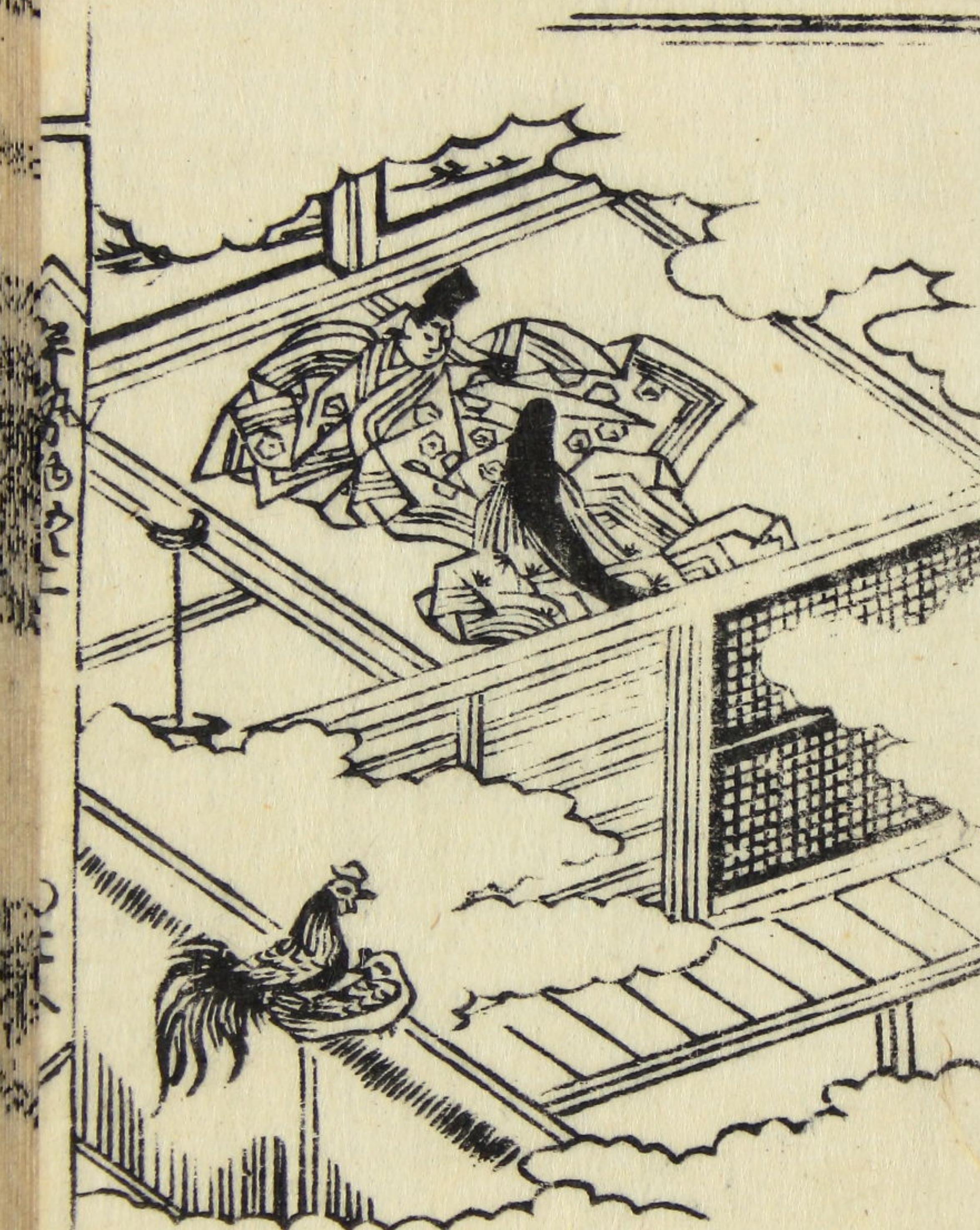
たと

おとととととととととととととと

まくまくまくまくまくまくまくまく

月

まくまくまくまくまくまくまくまく





君のそばを離れて  
やがてれどどのせんにかくよえを  
かうじまくも  
よされ。とおしてほよきは。おも  
ひがふかく今とぞおこしとれが  
ひりりねをあつたとくも  
まともう

水火漏てぬ  
はづひとれどもひゆうてきう  
くさぶらうとどもかくらひゆ  
のせめぢやくべーとくかくらひ  
やらすと称をわづけのせん

かく  
おみよのちくふ一  
いとこのいとまもあらすん  
がくまもと乃くまとてあらすん

あが中よし  
りとくがく。なまびくねだかくい  
されが里かせとくらう。じよきくが、おひ  
せとく。えがとく。かの男とくらへ  
りおからか。おとせとく。おとせとく  
おじくかとく。おじくかとく  
つとせとく。おじくかとく  
ようじか妹とく

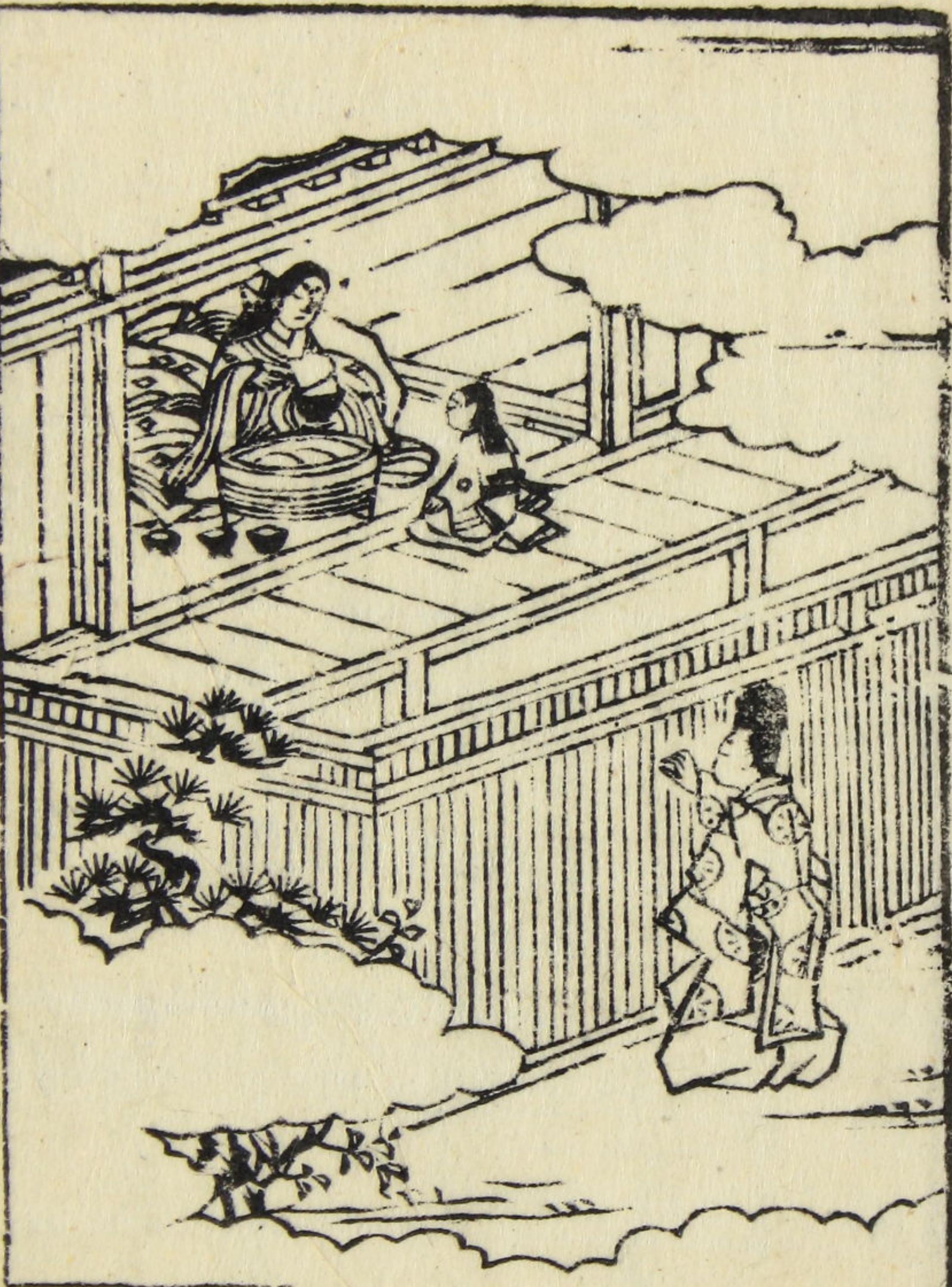
かく



くもつゝとされ。今へおとりあひてづ  
る。うじて、あごれ。こゑよまうけ  
あとも。うらもいだんあううきうを  
きれど、れかやまのうとやうそ  
おとがちうとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
ぐらんとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとく

あきとしのー、あきとしのー、  
そのまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと  
者男さかやきはう。男まつす下  
にとく別れみゆりよまゆとまゆと  
えとおこよまゆとまゆとまゆとまゆと  
くわんや。とあらんよ。とあらんよ。  
とあらんよ。とあらんよ。とあらんよ。  
とあらんよ。とあらんよ。とあらんよ。

奇とすんらこそひづりけむ  
かくまのこことゆきびま  
さくじゆいもとお松され  
とづぶつすくもさり日暮を  
桺うまやつまう年父ぬく  
我をかどりうつまよ  
さくじゆいあんとくまれとゆ  
桺うびけどひもどりうつま  
つわ春りもくじくものと

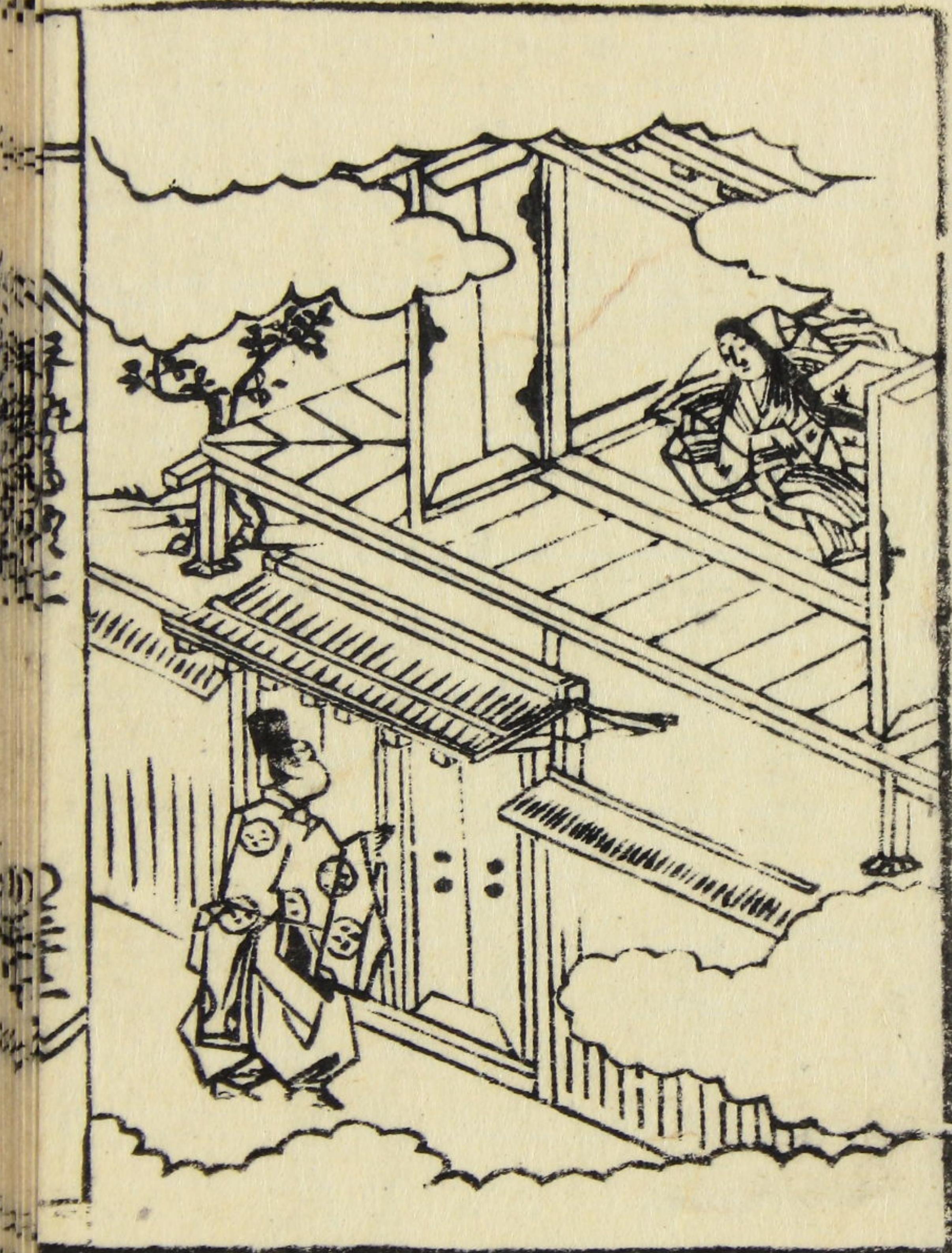


秋の沙原の神事也  
乃そひもむらにゆく  
あこねまかせ  
おみくじをと  
れかづかはりて  
男のみ草うかう  
ひきこどもふるの事

新葉  
れゆ  
べ神  
まことの  
たらし

西  
りうきみのくわうりけい  
一ねとせのとこに。あひまくま  
みといだぬくされ。さかのなまくあよ  
ねうとと。うらやうあたひてうげよと  
あくふうと

都  
都中おやふへまくとら  
くらべあれトノリとあくま  
と。ひとごうりく男ひびく  
まかう物もあんうぐ



れりやうそりわもひる  
者もこのまがりくわいをどよえ  
かそそくわざさやまくわせんせし  
かゆくとめのとめのと  
えみれぬ脚乃腰の毛のね  
わらわれうけく  
れよかぬあひもふりわと  
きあはくす  
ひくゆくか

いあうのあづれとじあくくわ  
まくとよかによーどぐや  
びうきれどああくわとそどやきり  
寄れとうの四ひんたうかうによひる  
せひをうそてひふこドとあくちあくさ  
かれぞ罵

ち方聲もとよと萬萬万葉のつやせ  
ききうつとちかひきひう

ノト

よりもよようようひいとまくうは  
あたううの内へあくよび  
かくべのとあくがくやぢや  
し。かくはくすうりくさんに  
ソセスムシテバヒリスル  
ばくひとかくくわゆ  
かくあくとつらをうぶ  
い。かくをかくせたう人のひと  
おとくならとくうしてあざまご

西  
うそでこのまゝわづんとぞよし  
あらわすかのうかくとくに  
ありふ

ま  
おもてとみるども人ひふうさ  
めんくはよわづらもあ  
しりがともあきあひり。せり  
うわ先やかりへきん  
かのぞとて下飯や乃き  
もうすまむよへきん

あといひあくらひ。あ  
る西院のみくど。もみじ不<sup>開</sup>  
きう。まほよみ。さうのこと。  
さうきり。まかとう。さうひあれ。もづくわ  
ゑ。さのえれ。あうから。けり。男れ。さうれ  
んとも。女車。さうひのう。あがうき。  
さく。ゆく。ゆく。そも。ばくらかた。くわ  
ぐらけり。わひ。うちの。ぬれ。色。う。の。  
う。う。う。う。も。わくに。女車。と。車。と。と。



の。也。じの。も。す。と。か。全。  
あ。と。あ。さ。ば。が。ち。か。ら。り。か。く。見。

者。わが男。家へやねぬやこちへ  
ゆきあくらむ。思ひりぞうと  
ひゆくかくひやん。うるさ  
いゆくはんのよき。まき  
うるさく。うるさく。まき  
うるさく。うるさく。まき  
うるさく。うるさく。まき  
うるさく。うるさく。まき  
うるさく。うるさく。まき

うひのりやまくらうとく。田んじふみよしにあ  
はなとをいひ。男らの娘とかがとどもじ  
ふうとう。めそもくいわ男の  
後事

出あいあを飛うわきのうかん  
なうくにまくるまくわうく  
く後ぐまくへりまくも。ぎるちまくと  
く。あがらむあわいひ。が。ゆとか  
りかじとらうよ。まんじらうりまくへ



卷之三

卷之六

よきれをゆく。ひそかにまづ。  
うやうやしく入る。又此日のいのち阿斗も  
あらぬ出でけり。苦のゆゑに  
合ひてけり。おやいとあん  
あんやあんやあんやあんや  
にあがむ。あんやあんやあんやあんや

若女かうとうきあり。ひめらぬ  
き男ひまづ。きがくりひかてたれ  
かくしもろりまく。やうこ男ひまづ。  
とひつあつじのとひとひ

のうそ  
支え  
紫の色を記す所いやとまか  
地ありあああぞかきこりひ



あがく立あぐのうとくはまくら  
高ちよとくとくれわきだ  
月うかんをけうかくうへ  
店がねよきとくあがまひ

カタマリアホ一経ばい

ひやうりんとく人仰あくまんが  
とくじりうとくとくせれん  
とく。かうの男すくまきとく

ゆひつき

先てりゑりあはにとりだつまび  
あまくすくすくねづこあ

ひ哥ひきうさじにわうそれどく

ひゆうぐわううひうとくのひくらうづ  
いそひ男うわいもんと。あひきうら先  
とかくやあくさん。のゆにかうて。あく  
さはよくううひうとく。づへきくとく

さつきも。あくへつをうかれべ。かぐくま  
まきれどあよもとづまごとくわくと  
糸う。附きるる月のほりうも。いと  
青う。ひよしひわざびとう。夜え  
やまと。とき風吹きう。ほうたう。とび  
乃う。ころ男兒もやうく  
根  
り葉まれう。まといおじま  
秋う。吹くとる。うつまく  
うれがゑ。日く。うだじまく



まことにやあぞうか 来

あがくとひとうりつきをもつも。うけ  
りだらひともうくべの事つむふと  
いと無からひきか別れへりきり。ほりて  
どうせか支へ。あらえんのうん  
とく月見りておれどもわやあひう  
きんとくとくとくとくとくとくとくと  
の人のながうれをなれのぐわよう  
わがまとくとくされへ後てかか

団  
やうゆめちりかくへにわくへ  
けされどありげりへ  
きく。ちくこねんあよひどとくふせき  
えうきれどじくことぢくあうとすく  
てきあくらも西うりへりへ  
たぬき川あまうりへかなまが  
さうへえあまうりへりへ

スノホ

おなまくねうそをきてはるよ

内  
ぬうじようせきそくよみを  
ひし。男うさあうるわあひけうんを  
人とあけうる。いだらとそれを  
今ぞくがくきれわと人角すん  
里とざれどうふぐまめり

